

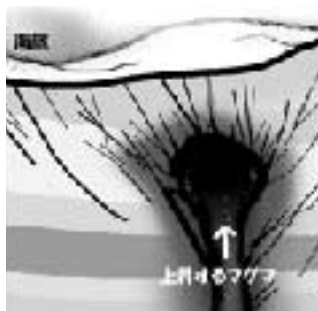
年以上前、東三河一帯は、太陽光の届かない深い海の底だったのです。

東三河の地形はマグマの活動で

三葉虫の絶滅もアンモナイトの繁栄も知らず、深海底でゆっくりと成長したマンガン・ノジュール。しかし、その後、マンガン・ノジュールのゆりかごであった深海底は、少しずつ隆起し、浅くなっていきました。これは、恐竜たちが登場したころに始まった世界規模の造山運動によるもので、中央構造線と呼ばれる日本でもっとも大きな断層が造られたのも、同じころです。

現在の蒲郡あたりの地域でも、地下の深いところでマグマが目覚め、活動を始めました。マグマは、秩父中・古生層と呼ばれる周囲の岩盤を熱と圧力で変成させながら、岩の割れ目を伝って地表近くまで上昇したのです。このときのマグマが冷え固まってできたのが、竹島をはじめ幡豆から蒲郡一帯の海沿いに見られる花崗岩類なのです。

やがて恐竜たちが滅びるころには、現在の三河地方は陸地になっていました。雨や川の働きで陸地の表層が削られる一方、地下深くではマグマが活動を続け、周囲の岩石を溶かし込みながら、現在の岡崎のあたりで岩の割れ目に沿って上昇しました。このマグマの熱で周囲の岩石はさらに変成し、現在の三ヶ根山から本宮山あたり一帯の巨大な片麻岩の塊が誕生したと考えられています。



▲竹島をつくる基となった、分厚い堆積岩（たいせきがん）のなかを上昇する灼熱のマグマ。まわりの岩石も熱で変質させてしまいます。

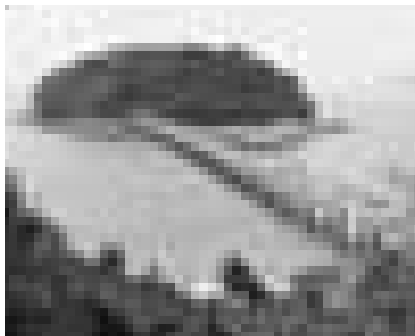
その後、東三河一帯は、いったん浅海の底の一部となったあと、およそ千600万年前の設楽地方での火山活動を皮切りに、再び隆起して陸上となり、浸食され続けて現在に至ります。こうして私たちの目の前に現れたのが竹島であり、蒲郡をぐるりと

取り囲む三ヶ根山から本宮山に至る山並みなのです。

一味違う散歩はいかが？

竹島の岩石は古期領家花崗岩と総称されていますが、小さな島でも岩の様子は一様ではありません。半花崗岩と称される白っぽい花崗岩や、花崗岩よりやや暗色の石英閃緑岩などが含まれ、脈状の構造なども見られます。

さて、海からの風が心地よい、散歩に最適な季節となりました。蒲郡駅の南、新緑に包まれた生命の海科学館から海に向かって左に折れ、堤防の跡にそって歩くと、やがて視界が開けて竹島水族館が見えてきます。竹島はもうすぐその先です。



▲蒲郡のシンボル竹島

竹島を散策の折には、植物や海の景色だけでなく、恐竜時代から連綿と続く竹島の歴史を秘めた足元の石にも、眼を留めてみてはいかがでしょう。いつもと一味違った散歩になることと思います。

今回の「海辺の館のとお送りき」は、竹島水族館からお送りいたします。お楽しみに。

生命の海科学館
学芸員 山中敦子

●イベントのお知らせ

サウンド・オブ・サイエンス①
～太陽系 The Solar System～

とき 6月19日(土) 午後7時～

ところ 情報ネットワークセンター・生命の海科学館

入場無料、申し込みは不要です。お誘いあわせの上、お気軽にお越しください。

※「夜の科学館をさんぽ」は、奇数月の第3土曜日、午後7時30分～8時30分の開催です。こちらは定員があるため、事前の申し込みが必要です。まずは、生命の海科学館までお問い合わせください。

生命の海科学館
☎66・1717 FAX66・1817 Eメールinfo@nrc.gamagori.aichi.jp